

知っておこう!

# 健康診断の ウン?・ホント!

監修:石川 隆氏  
丸の内クリニック 院長



第1回

## 健康診断とは?

私たちは誕生後からずっと、成長にともなってさまざまな形で健康診断を受けていきます。しかし健康を維持するための検査や数値について、意外と間違った認識や誤解も多いようです。このシリーズでは、現在会社員で39歳の健(タケシ)さんと、専業主婦である34歳の妻、康子(ヤスコ)さんの例から、健康診断について、またいろいろな検査値についての正確な意味や考え方を紹介し、理解を深めていきます。



健さん  
(39歳)



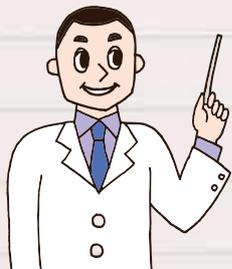
康子さん  
(34歳)

### 1 健康診断は毎年受けなければならないの?

会社から健康診断の案内が来ていたけど、健康診断って毎年受けなければならないの?



そうだね。労働安全衛生法という法律で決まっていて、会社に勤めている人は毎年、健康診断を受ける義務があるし、会社にも社員に健康診断を受けさせる責任があるんだよ



労働安全衛生法に従い、多くの会社では保険料をおさめている健康保険組合が主体となって各医療機関に健康診断を依頼し、結果の一部を会社に報告する形式がとられています。専業主婦の場合は、労働安全衛生法の対象にはなりません。

しかし健康保険組合に加入している会社員の配偶者なら、健康保険組合のサービスの一環として決められた項目に限り、健康診断を受けられるようになっています。

健康診断には通常の“一般健診”以外に、40歳以上の方に義務づけられている“特定健診”があります。“特定健診”は検査項目が少し多いのですが、これは年齢が上がるに

従って、かかりやすくなる病気の種類も増えてくることが考慮され、40歳を境に受ける検査を増やしているのです。

“特定健診”は、2008年4月より、40~74歳までの医療保険者(会社なら健康保険組合)に義務づけられた制度です。メタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)に着目して糖尿病、高血圧症、脂質異常症などの生活習慣病の予防を重視している点から、「メタボ健診」とも呼ばれています。

会社に義務づけられている“一般健診”と同じような検査項目が設定されているので、会社の健康診断を受けていればおおよそはカバーできます。“一般健診”が会社である事業主に義務づけられている一方、“特定健診”は健康保険組合などの保険者に義務づけられているもので、それぞれ実施の責任者が異なります。

## 2

# “一般健診”だけ受けていれば大丈夫？

健康を維持するには、“一般健診”だけ受けていれば大丈夫なの？

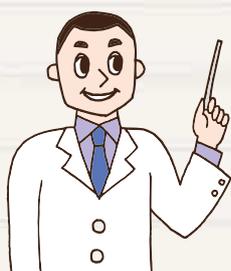
配偶者

40才以上

特定健診

会社

大丈夫だとはいえないね。“一般健診”は“特定健診”と同じように生活習慣病予防のための検査項目が主体で、働き盛りに多いがんなどの検診の項目はほとんど含まれていないんだ



検診項目は会社によって異なりますが、人間ドックに近い項目の検診では、胃ならバリウムを使った造影検査を基準として、希望すれば内視鏡検査も受けられるケースもあります。腹部超音波検査が入っていて、50歳以上の男性はP S A検査

を、女性は乳房超音波検査かマンモグラフィーを受診でき、また、子宮頸部細胞診という検査をオプションで選べる会社や、配偶者の人間ドック受診をほとんど負担してくれる会社などがあり、社員の自己負担が少なく喜ばれているようです。

いずれもそれぞれの会社の健康保険組合によって、検査項目や費用負担はまちまちといえます。

“一般健診”と“人間ドック”の違いですが、表1のように“一般健診”にはがん検診の項目がありません。がん検診については、頻度が高く早期発見が有効ながんとして胃がん、大腸がん、肺がん、乳がん、子宮頸がんがあり、厚生労働省もこの5つのがんに対して健康診断のガイドラインを作成し受診率を上げるように啓発活動を行っています。

しかしがん検診の実施主体はこれまで地方自治体で行う検診で、各自治体にまかされていました。このため検診受診率も自治体によりバラバラで、欧米などの諸外国に比べると低率で早期発見が有効ながんが、進行してしまっただと見つかるというケースが多いようです。

“人間ドック”は1回受診すると4~5万円と、“一般健診”の1万円前後より経費がかかりますが、がん検診で有

効とされている検査項目が含まれているのが利点です。人間ドックの費用まで負担してくれる会社もあります。経済情勢によって自己負担分が多い会社や、経営悪化で検査項目が減るところなど、社員の自己負担分に差が生じるのは仕方ありません。自己負担しても、自分の体は自分で守るという心構えは大切です。

表1

		人間ドック	一般健診	特定健診
身体計測	身長、体重、BMI	○	○	△
	腹囲	○	○	○
血圧	血圧	○	○	○
	視力	○	○	×
目	眼底・眼圧	○	×	×
耳	聴力	○	○	×
呼吸器	胸部レントゲン	○	○	×
	呼吸機能検査	○	×	×
腎	尿素窒素、クレアチニン	○	×	×
	尿蛋白	○	○	○
	尿潜血・尿沈渣	○	×	×
糖代謝	血糖、尿糖	○	○	○
	HbA1c	○	△	△
血球	白血球、赤血球、Hb、Ht	○	○	○
	血小板	○	×	×
肝機能	AST,ALT,γ-GTP	○	○	○
	TBil,LDH,ALP,TP,Alb	○	×	×
膵	アミラーゼ	○	×	×
脂質代謝	LDL-c,HDL-c,TG	○	○	○
尿酸	尿酸	○	×	×
腹部超音波検査	肝・胆・膵・腎等	○	×	×
便	便潜血	○	×	×
上部消化管	内視鏡、X線造影検査	○	×	×

オプションとしてのがん検診

乳がん検診	マンモグラフィー・視触診・乳腺エコー	の組み合わせ
子宮がん検診	子宮頸部細胞診・内診・経膈エコー	

※赤字は厚生労働省のガイドラインで勧める検診方法

### Column

## 用語解説

### 人間ドック

人間ドックは、昭和29年(1954年)から、国立東京第一病院(現在の独立行政法人国立国際医療研究センター)と聖路加国際病院で始められた。当初は「短期入院精密身体検査」と呼ばれていた。「人間ドック」という呼称は当時東大病院に入院した代議士の「船が大海の航海から帰ってきて定期的にドックに入って検

査し、悪いところがあればそこを修理し、次の航海の安全を期するのに似ています」という話に由来するとされている。

「ドック」は、船の修理や建造用の施設「dock(ドック)」のことで、次の航海で事故が起こらないよう、完全な点検・修理をするために入る場所のこと。「人間ドック」と間違っ呼ぶ人がいるが、「犬」とは関係ない。当時は5~7日の入院で東京第一病院では1万円、2ヶ月遅れで発足した聖路加国際病院は2万円だった。

参考:日本医事新報 No.3652 p43-48,1994